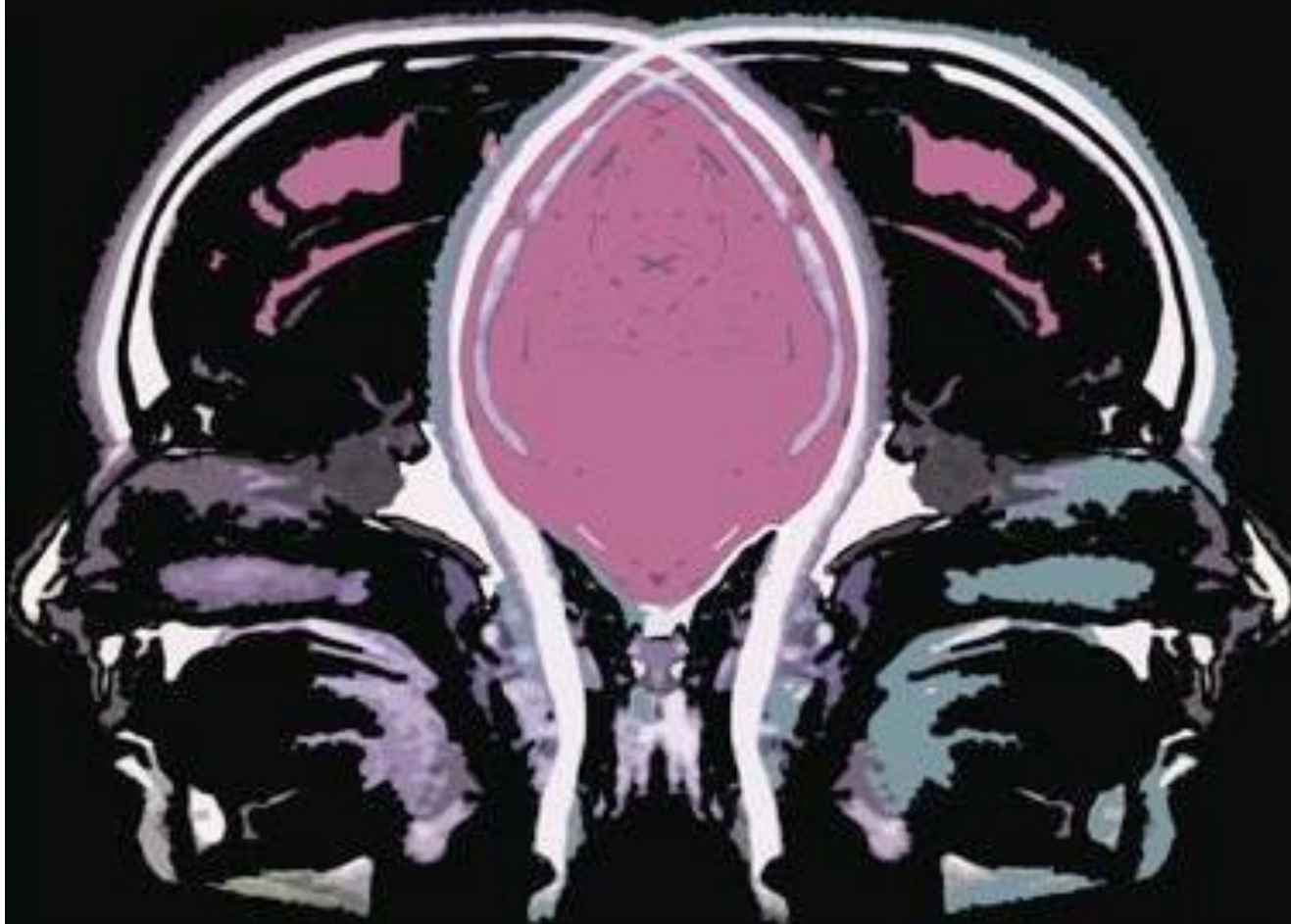


ThinkPink

the Complete Edition
by Ran Pink



Central Intelligence

この本はシェル、アレキサンダー、オリビアに捧げます。
本物の魔法が存在することの証明。

ThinkPink

完全版

ラン・ピンク 著

イラスト：トム・ジョーゲンソン 絵

編集：ニューウェル・アンフリード

セントラル・インテリジェンス
センター・ティアリストのためのマニュアル

ニューウェル・アンフリードによる序文

Copyright© 2006 Ran Pink

本書のいかなる部分も、著作権所有者の書面による許可なく複製することはできません。

Think Pinkの使用に関するテレビ放映権は留保されており、
Ran Pinkの書面による許可によってのみ取得することができます。

www.secretcenter.info

ran@secretcenter.info

2

(有)フェザータッチMAGIC

www.ftmagic.jp

ft@ftmagic.jp

目次

ニューウェル・アンフリードによる序文	3
はじめに	5
メカニクス	
.....	9
オリジナルシンクピンク.....	10
アドバンスト・テクニク.....	17
ボーナス技法.....	23
セントラル・インテリジェンス	26
なぜ書き留めるのか	
OR TEAR IT UP?.....	27
紙を取り戻す.....	29
覗き見のタイミング.....	31
ペーシング.....	32
アビリティを磨く.....	33
その可能性.....	35
11 前提条件	36
誰かを想う.....	38
スコアカードのセットアップ.....	39
エンパス.....	40
アルターエゴ.....	43
ホワイトノイズ.....	45
幸運はいつも正しい.....	47
シンボリックトランスファー.....	50
シナプスの妄想(TOM JORGENSEN).....	53
MOVIE-SEEN (グレッグ・アーチェ).....	57
ザ・チケット (リンカーン).....	59
P.I.N. (ANDREW GERRARD).....	60
メンタル・シャレード (ニューウェル・アンフリード).....	61
最終的な感想	63

序文

私のことをご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私はニューウェル・アンフリードといい、会社を退職して以来、マジックとメンタリズムの指導に人生を捧げ、またハリウッド・マジックのデモンストレーターとしても活躍しています。私は、ユージン・バーガー、マックス・メイヴン、ブルース・バーンスタインなど、メンタリスト界で最も優れた先生たちから学ぶ機会に恵まれてきました。

私は、ハリウッド・マジックの若く熱心な顧客として、ランとの初期の出会いを思い出すことができます。何年もの間、ランは店にやってきては、彼のセンター・ティアのテクニック、根拠、プレゼンテーションの様々なバリエーションを私に見せてくれました。いつものように、私はいくつかの提案と今後の研究領域を作りました。戦士のように、彼はいつも戻って来て、次のバージョンを見せてくれました。これはしばらく続いた。そしてついに、彼は完璧に見えるバージョンを披露してくれた。これには驚かされた。蘭は私のアドバイスを受け、それを他の人に見せた。そして、微妙なニュアンスを加えていった。やがて、Think Pinkの最初の原稿が発行され、業界の名士たちから絶賛を浴びた。

メンタリストのような何でも屋と違って、蘭はちょっとユニークだと思う。彼はスペシャリストなのです。彼は、1つか2つの技法を選び、それを正しく習得するために必要な時間、完全に没頭することを選択したのです。Think Pinkは少なくとも5年以上前から開発されており、私たちはこの考え方の恩恵を受けているのです。また、彼は優れた音楽家であり、エンターテイナーでもありません。この2つの才能を融合させることで、ランは観客を楽しませながら、どうやってこのエフェクトを完成させたのか、その場にいた人たちを困惑させるようなパフォーマンスをすることができるようになりました。この原稿は、あなたがセンター・ティアを使って驚異的なミラクルを達成するための最初の一步を踏み出す際に役立つことでしょう。

幸運なことに、この技法に関する多くの批判的な考え方が、ここで勉強することができます。

ランは、私たちの技術を向上させるために、この素材を使い、さらに改良を加えることに同意してくれると思います。私たちは皆、先人たちの業績の上に立っているのです。多くの生徒たちに言ってきたように、これは目的地ではなく、旅なのです。旅を楽しんでください。

-Newell Unfried

「自分自身の中に全世界があり、
見ることと学ぶことを知れば、
扉はそこにあり、
鍵はあなたの手の中にあるのです。
鍵も開く扉も、自分以外、
この世の誰も与えてはくれないのだ。」

J. クリシュナムルティ

はじめに

センターティア

センター・ティアとは、本物の読心術のような錯覚を起こさせるために使われる技法です。折りたたんだ紙を左右に2回ずつ引き裂くことで、紙が破壊されたように見せかけながら、書き込まれているほとんどの部分にアクセスすることができます。

大昔の霊能者や霊媒師がこの方法を生み出し、秘密にしたまま代々受け継いできたのでしょう。

この技法は起源が未確認ですが、20世紀初頭にマジシャンによって初めて使用されました。

トニー・コリンダは「*13 Steps To Mentalism*」の中でこの技法を詳しく解説しています。センターを盗み取り、後で都合の良い時に読むのでした。

アル・ベイカー、そしてアル・マン、リチャード・オスターリンド、ブルース・バーンスタインは、ティアリング中に情報をのぞき見る方法を編み出し、大きな改良を加えた。

もう燃やす証拠もなく、観客に背を向けることもありません。

つまり、メンタリストは参加者と一緒にその場に留まり、紙を破っている間、参加者の目を見つめることさえできるようになったのです。

Think Pinkの大きなインスピレーションの源は、リチャード・オスターリンドの*Perfected Center Tear*です。

彼のセンター・ティアのあらゆる側面に対する考えは、純粹に天才的です。彼は、観客書いてもらうガイドとして円を使うことから脱却した初期のパイオニアの一人です。

円を使ったセンターティアを使ったトリックは、子供向けのマジック本にも登場している。

この情報化時代、それらの本を読まない人でも、インターネットで簡単に古典的な「トリック」を学ぶことができる。

先日、私は偶然、無料のバー・トリックのサイトを見つけ、センターティアを無償で提供し、今でも教えてくれる。リチャード・オスターリンドは時代の最先端を走っている。

アンネマン、T.A.ウォーターズ、ドック・ヒルフォード、リチャード・ブッシュ、バナチェック、バリー・リチャードソン、テッド・レズリーなどもセンターティアで素晴らしく刺激的な考え、テクニック、前提を提供し、メンタリズムの芸術に新しい可能性を切り開きました。

もし、あなたがこのテーマについてさらに勉強したいのなら、私はこれら彼らの作品をあなたのライブラリーに加えることをお勧めします。必携である。

情報を得るHOWの方法はたくさんあります。そして、Think Pinkでは、テスト条件下で情報を得ることができます。

しかし、真のメンタリストの証は、情報を得る方法ではなく、情報をどのように明らかにするかにあります。単に情報を漏らすだけでは、弱いパズルにしかありません。

メンタリズムを演じるには、真のショーマンシップと、キャラクターを演じる能力が必要です。簡単そうに見えると、あなたがなんとなく読んだり、鉛筆読みを観察していることがバレてしまいます。難しく見えるはずです。

なぜ「ピンク」なのか？

世界中のメンタリストが、シンク・ピンクが最もきれいで、特に名刺の中央の破れを自然に処理できると教えてくれました。

しかし、四角い紙やポスト・イットでも同じように使えます。シンクピンクを使うと、紙を四方八方から見せながら、ダイレクトに、しかし非常に繊細な方法で情報にアクセスすることができます。破っている間、自分の手元を見ることはありません。紙が16分の1の大きさに破られているように見えるので、覗き込む必要がないのです。

情報を盗み見る必要はないのです。シンクピンクは非常に汎用性の高いティアです。

最大の特長は、ほとんどの時間目を閉じたまま、爪を立てずに簡単に行うことができます。

これは、引き裂く際にガイドができるためです。また、情報を読み取る際にも、正しい方向で読み取ることができます。従来のティアリングでは、ときどき中心を回転させないと読めないことがありました。奇妙で不自然な手の動きもありません。

Think Pinkはどんなサイズの紙でも使えますが、私は名刺やインデックスカードに使えるようにデザインしました。私は67ポンドの紙でパッドを自作しています。この厚みであれば、不透明で、かつ、かなり破りやすいのです。

もし、あなたがすでにお気に入りのティアやピークの方法を使っているならば、あなたの武器となる優れた新しいテクニックと、あなたの右脳を動かすべきいくつかの考えや前提を得ることができます。

まずはテクニックを学び、そしてクリエイティブになりましょう。

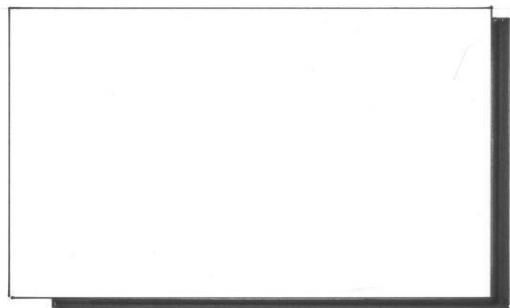
メカニクス

オリジナルの Think Pink 基本

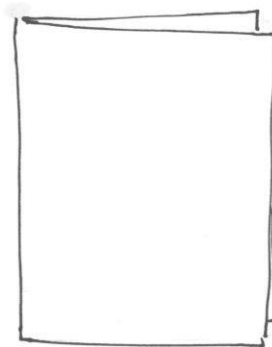
これは、私が最初にリリースした『Think Pink』で説明した手法です。その後、改良と工夫が加えられていますが、それは後述します。私の良き友人であるトム・ヨルゲンソンによる美しいイラストによって、説明はより合理的になり、改善されています。

Think Pinkをご存じない方は、まずこのバージョンを理解されることをお勧めします。個人的には、「ベーシック」と「アドバンス」を組み合わせて使っています。これらのオプションについても、後ほど説明します。

- インデックスカードや名刺を手に取り、白紙の面を上にして並べます。紙の長辺が上下になるようにします。紙を左から右へ、ただし少し下にならずにして折る。



1

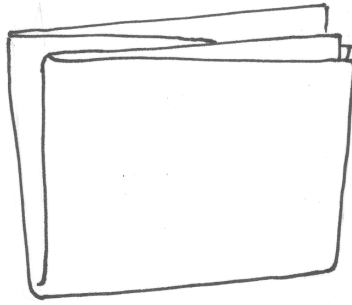


2

- 次に、紙を下から上へ、ただし最上部の端の1/8インチ手前で折り返します。(イラスト3) 練習のために、あなたのイニシャルを、あなたの方を向いている用紙に書いてください。

本番では、参加者のイニシャルをここに入れてもよいでしょう。

これはオプションです。



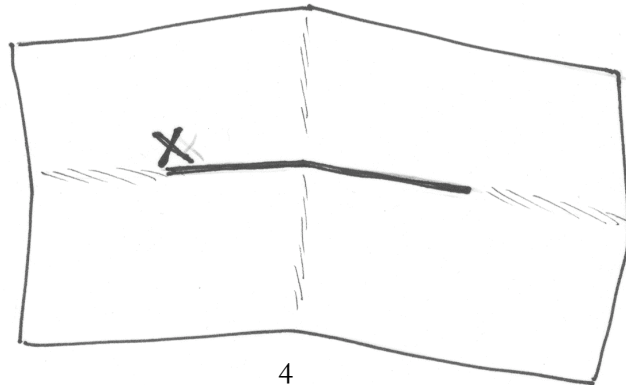
3

- 上から下へ、右から左へ紙を広げます。

- 中央の折り目に沿って線を引きます。線の上にXを描きます。

- Xは、参加者がどこに書くべきかを導くものです。

人々はXの近くでサインをすることに慣れていますが、この見事な巧妙さは、リチャード・オスターリンドから始まったもので、間違いのないものです。

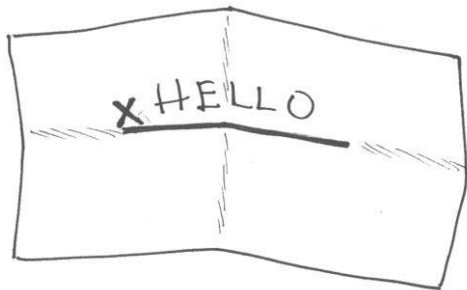


4

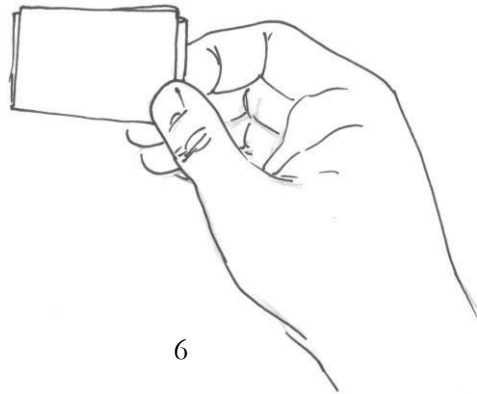
- 練習のため、Xの横の線に「Hello」と書いてください。

紙を折り、白紙の面を自分に向けて、イニシャル（短辺）を鏡に向けるか、自分から遠ざけるようにして右手に持ちます。

- このとき、紙の端が左上、中央または折り返した部分が右下となります。



5



6

- 紙を半分に裂き、右側を体の方に引き寄せます。
- 右手の部分を左手の親指の下に置き、左手の部分の上に乗せます。

—以下省略—